



# ビーム<sup>TM</sup>パディート<sup>®</sup> 箱粒剤

技術資料



## はじめに

ビームパディート箱粒剤はクミアイ化学工業が開発した水稻・育苗箱施用専用の殺虫・殺菌剤で、いもち病防除に定評のあるMBI-R系殺菌成分トリシクラゾール(商品名:ビーム)と、チョウ目だけではなく幅広い害虫に対し高い防除効果を有するアントラニリックジアミド系(以下ジアミド系)殺虫成分シアントラニプロール(通称:サイアジピル、商品名:パディート)の混合剤です。

本剤はKUM-1302箱粒剤の試験コード名で平成25年度より(一社)日本植物防疫協会を通じた公的試験が実施され、水稻の主要病害虫であるいもち病、イネミズソウムシ、イネドロオムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、フタオビコヤガに対して優れた効果を示す事が確認され、2015年12月9日に「ビームパディート箱粒剤」の名称で農薬登録を取得致しております。

この技術資料は今までに得られた知見を基にビームパディート箱粒剤の特長、作用性、試験成績などを取りまとめました。本剤のご使用にあたりご参考にしていただければ幸いです。

## 特長

- **トリシクラゾール(ビーム)はいもち病菌の侵入を強く阻止し、葉いもちを長期間にわたり防除します。**
- **シアントラニプロール(パディート)はチョウ目害虫に優れた残効を示し、その他幅広い害虫にも有効です。**
- **上記2成分の混合剤で、水稻栽培の初・中期に発生する主要な病害虫の防除が可能です。**

## 名称・有効成分


商品名:ビームパディート箱粒剤 物理化学的性状:淡褐色細粒

種類名:シアントラニプロール・トリシクラゾール粒剤

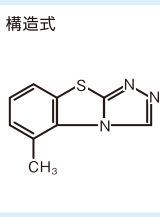
有効成分および含量:トリシクラゾール(4.00%)、シアントラニプロール(0.75%)

有効成分名	シアントラニプロール(パディート)	トリシクラゾール(ビーム)
化学名	3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジル)-4'-シアノ-2'-メチル-6'- (メチルカルバモイル)ピラゾール-5-カルボキサニリド	5-メチル-1,2,4-トリアゾロ[3,4-b]ベンゾチアゾール
分子量	473.7	189.24
融点	224℃	184.6-187.2℃
蒸気圧	1.8×10 <sup>-14</sup> Pa (25℃)	1.44×10 <sup>-6</sup> Pa (25℃)
オクタノール/水分配系数 logPow	1.94 (22℃)	1.41 (20℃)

構造式



構造式



## 安全性(製剤)

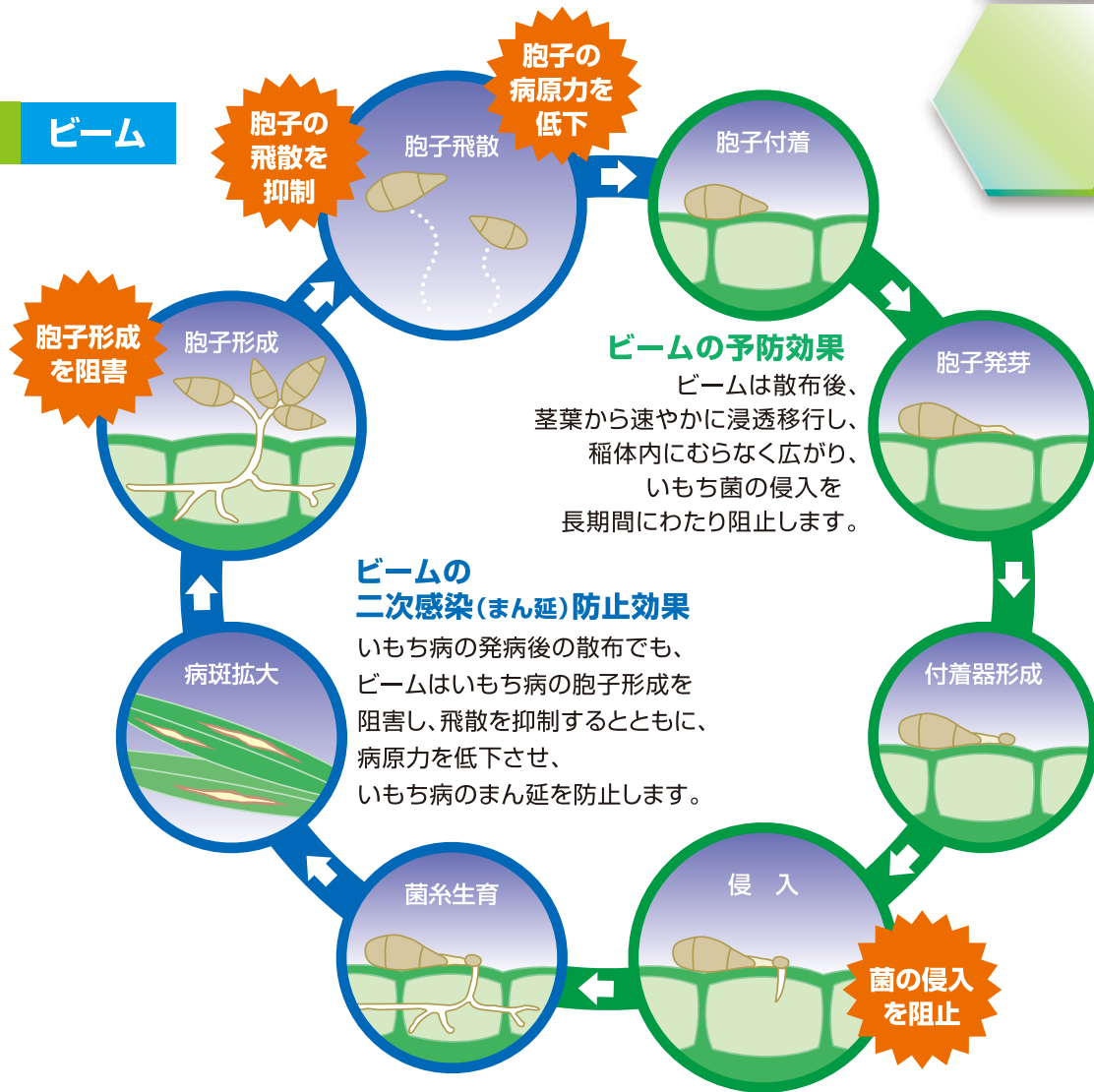
人畜毒性:普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)

試験の種類	供試動物	LD <sub>50</sub> (mg/kg)
急性毒性(経口)	ラット♀	>2,000
急性毒性(経皮)	ラット♂♀	>2,000

水産動植物に対する影響

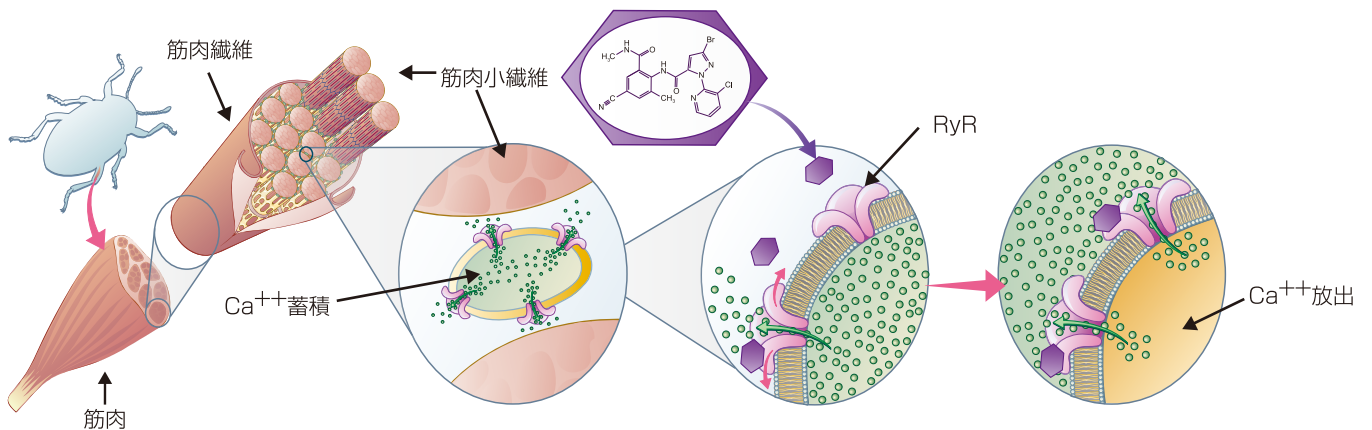
試験の種類	供試動物	LC <sub>50</sub> またはEC <sub>50</sub> (mg/l)
魚類	コイ	LC <sub>50</sub> : 637 (96hr)
ミジンコ類	オオミジンコ	EC <sub>50</sub> : 3.08 (48hr)
藻類	緑藻	ErC <sub>50</sub> : >1,000 (0-72hr)

作用性 **ビーム**



作用性 **パディート**

殺虫成分サイアジピル<sup>®</sup>が、昆虫の筋肉に作用して昆虫の行動に影響を与えます。



**パディートの特長**

**1. 幅広い殺虫スペクトラム**

甲虫目、チョウ目害虫に1成分で高い効果を示す、ジアミド系の殺虫剤です。

**2. 速やかな摂食活動阻害による作物保護**

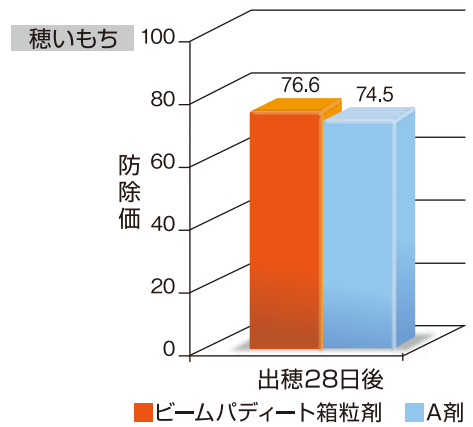
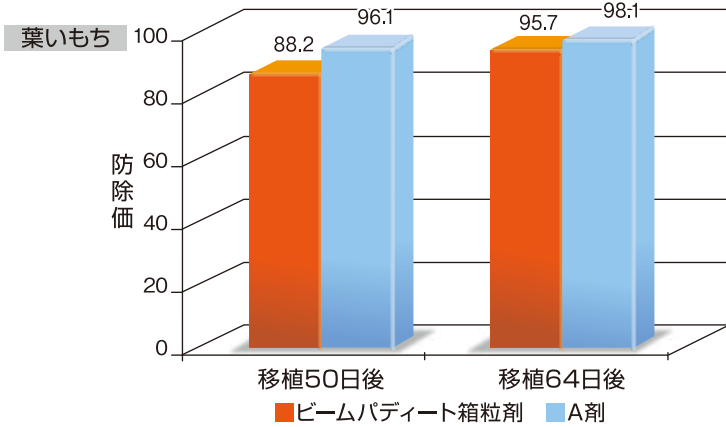
主に害虫の摂食により薬剤が虫体内に取り込まれ、速やかに摂食活動を停止させます。

**3. 根からの吸収移行性と長い残効性**

薬剤は根から吸収された後、速やかに移行するため、害虫による食害やイネ体内への侵入を防ぐことができます。またイネ分げつ期以降に飛来するチョウ目害虫を防除するための長期残効も有します。

# 試験成績

## いもち病

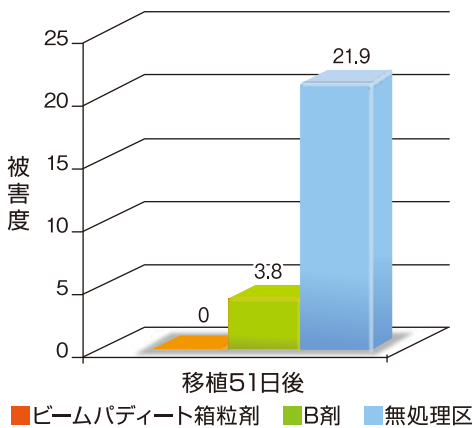


平成25年度 長野県農業試験場

品種	コシヒカリ		
播種日	5月8日	移植日	5月29日
		出穂日	8月12日
発生状況	葉いもち 中発生(接種) 穂いもち 少発生		
処理日	ビームパディート箱粒剤:5月26日(移植3日前) A剤:5月29日(播種時覆土前)		
調査日	葉いもち 7月18日 移植50日後 8月1日 移植64日後 穂いもち 9月9日 出穂28日後		
調査方法	葉いもち 各区100株について株あたり病斑数を調査した。 穂いもち 各区30株の全穂の発病を程度別に調査し、被害度を算出した。		

**考察** 対照剤とほぼ同等の効果が認められた。

## イネドロオウムシ

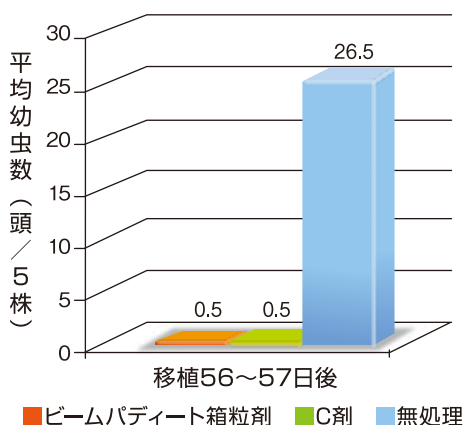


平成25年度 宮城県植物防疫協会

品種	ひとめぼれ		
播種日	3月30日	移植日	5月5日
発生状況	中発生		
処理日	ビームパディート箱粒剤:5月2日(移植3日前) B剤:5月5日(移植当日)		
調査日	6月25日 移植51日後		
調査方法	各区300株(3地点×100株)の被害度を調査した。		

**考察** 対照剤に優る効果が認められた。

## イネミズゾウムシ

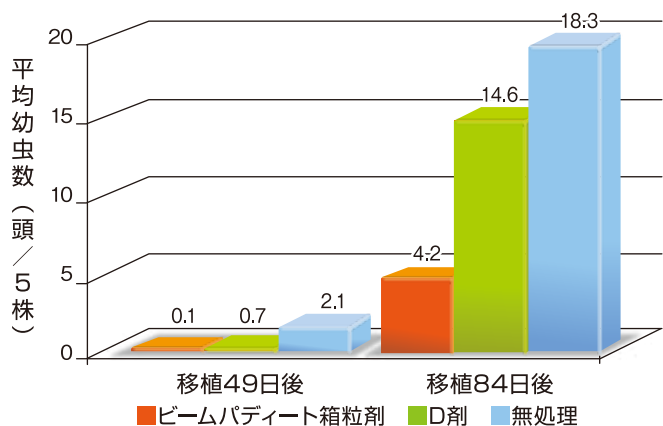


平成25年度 岩手県植物防疫協会

品種	あきたこまち		
播種日	4月16日	移植日	5月23日
発生状況	中発生		
処理日	ビームパディート箱粒剤:5月20日(移植3日前) C剤:5月23日(移植当日)		
調査日	7月18日 移植56~57日後		
調査方法	各区10株(2地点×5株)を掘り取り、定法により幼虫数を調べた。		

**考察** 対照剤と同等の効果が認められた。

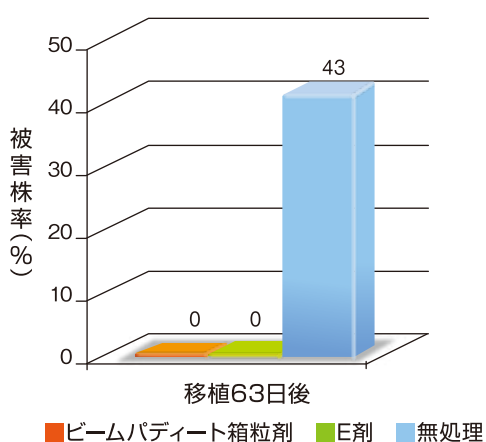
## コブノメイガ



平成25年度 山口県農林総合技術センター

品 種	ヒノヒカリ	
播 種 日	5月27日	移植日 6月20日
発生状況	第一世代:少発生 第二世代:多発生	
処 理 日	ビームパディート箱粒剤:6月17日(移植3日前) D剤:6月20日(移植当日)	
調 査 日	8月 8日 移植49日後(第1世代蛹最盛期) 9月12日 移植84日後(第2世代蛹最盛期)	
調 査 方 法	各区50株について上位3葉を対象に被害葉を調査した。	
考 察	対照剤と同等の効果が認められた。	

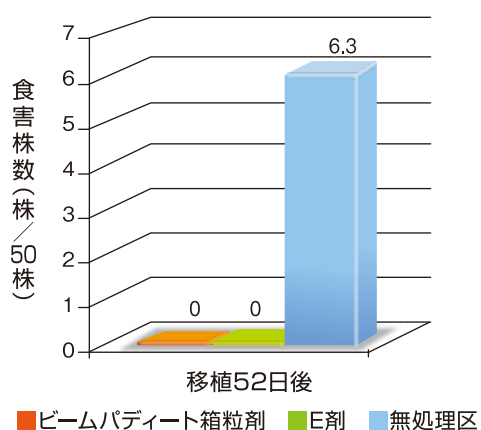
## ニカメイチュウ



平成25年度 福井県植物防疫協会

品 種	コシヒカリ	
播 種 日	4月23日	
移 植 日	5月17日	
発生状況	中発生	
処 理 日	ビームパディート箱粒剤:5月14日(移植3日前) E剤:5月17日(移植当日)	
調 査 日	7月19日 移植63日後	
調 査 方 法	各区100株×3か所について枯株数を調査した。	
考 察	対照剤と同等の効果が認められた。	

## フトオビコヤガ



平成26年度 福井県植防協会

品 種	コシヒカリ	
播 種 日	4月17日	
移 植 日	5月11日	
発生状況	少発生	
処 理 日	ビームパディート箱粒剤:5月8日(移植3日前) E剤:5月11日(移植当日)	
調 査 日	7月2日 移植52日後	
調 査 方 法	各区50株(×3地点)の食害株数と食害葉数を調査した。	
考 察	対照剤と同等の効果が認められた。	

# 育苗箱専用殺虫殺菌剤 ビーム™ パディート® 箱粒剤



有効成分：トリシクラゾール……4.00% シアントラニプロール…0.75% 人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）

## 適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む農薬の総使用回数
稲（箱育苗）	いもち病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ コブノメイガ フタオビコヤガ	育苗箱 （30×60×3cm、 使用土壌約5L） 1箱当り50g	移植 3日前～ 移植当日	1回*	育苗箱の 上から 均一に散布	1回*	4回*以内 （育苗箱への 処理は1回以内、 本田では 3回以内）

★上記以外には使用しない

\*印は収穫物への残留回避のため本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

## 上手な使い方 移植3日前～移植当日に、育苗箱1箱あたり50gを均一に散布してください。

### 1 箱当り50gを均一に

育苗箱の上から均一に散布してください。

### 2 軽く払って

薬剤散布後、軽く苗の上半分を払い、葉に付着した薬剤を培土の上に落としてください。

### 3 軽く灌水

最後に上から軽く灌水し、薬剤を培土の上に落ち着かせてください。

## 使用上の注意

- 所定量をそのまま手、または散粒機で育苗箱中の苗の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤は軽く払い落としてください。
- 育苗箱の土壌表面が乾燥している場合、苗を田植え機にのせる際、薬剤が落下するおそれがある場合は散布後葉に付着した薬剤を払い落とす後、軽く灌水してください。
- 軟弱徒長苗、老化苗などには使用しないでください（薬害）。
- 稲苗葉がぬれていると薬害を生じやすいので、散布直前の灌水はしないでください。
- 代かきはていねいに行ない、移植後田面が露出したりしないように注意してください。移植後は直ちに入水し、水深2～3cm程度に保ち、極端な浅水や深水にしないでください（薬害）。
- 深植にならないように注意してください（薬害）。
- 移植後、低温が続く苗の活着遅延が予測される場合、極端な高温（30℃以上）が続くと予想される場合は、使用しないでください（薬害）。
- 本田が砂質土壌の水田、漏水田、未熟堆肥多用田では使用しないでください。
- 使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ● 防除日誌を記帳しましょう。

本資料は2017年10月現在の知見に基づき作成しています。